

県単河川改良二級河川能瀬川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

津幡町

# 谷内石山遺跡

2005

石川県教育委員会  
(財)石川県埋蔵文化財センター

やちいしやま  
谷内石山遺跡

2005

石川県教育委員会  
(財)石川県埋蔵文化財センター

## 例 言

- 1 本書は谷内石山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は河北郡津幡町谷内地内である。
- 3 調査原因は県単河川改良二級河川能瀬川であり、同事業を所管する石川県土木部河川課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成15年度から平成16年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は、石川県土木部河川課が負担した。
- 6 現地調査は平成15年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。  
期 間 平成15年10月2日～同年11月4日  
面 積 650m<sup>2</sup>  
担当課 調査部調査第3課  
担当者 岡本恭一（調査専門員）、澤辺利明（課主査）
- 7 出土品整理は平成16年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成16年度に実施し、調査部調査第3課岡本が執筆・編集した。
- 9 調査には下記の機関の協力を得た。  
津幡町教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
  - (1) 方位は磁北である。
  - (2) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。
  - (3) 遺物実測図については須恵器を断面黒塗りとした。
  - (4) 遺構は略号で表記する。主なものSD(溝)・P(穴)である。

## 目 次

第1章 位置と環境 .....	1
第2章 遺構と遺物 .....	1
第1節 遺構 .....	1
第2節 遺物 .....	4

## 挿図目次

第1図 谷内石山遺跡の位置 .....	1	第4図 遺構実測図 .....	5
第2図 谷内石山遺跡と周辺の遺跡 .....	2	第5図 出土遺物実測図 .....	6
第3図 調査区位置図 .....	4		

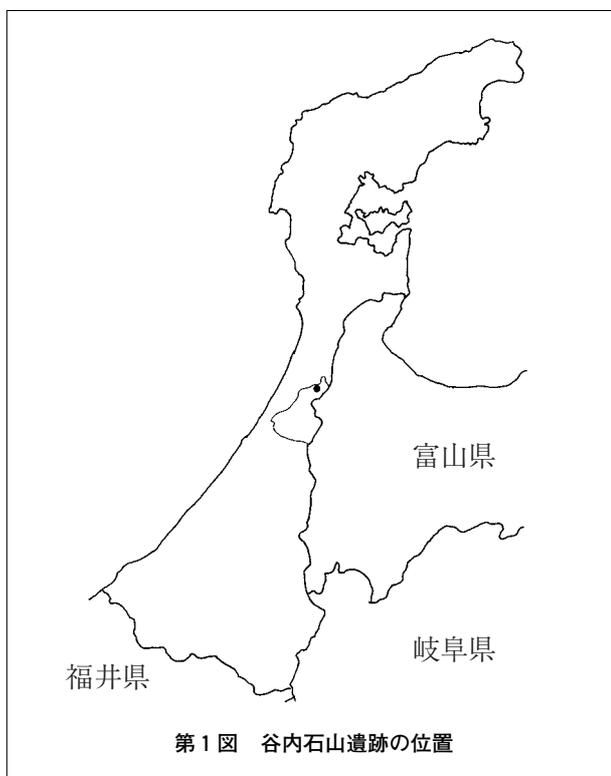
## 表 目 次

第1表 遺跡地名表 .....	3
第2表 出土遺物観察表 .....	7

# 第1章 位置と環境

谷内石山遺跡は河北郡津幡町字谷内地内の通称石山と呼ばれる丘陵の尾根に位置し、昭和54年<sup>注1</sup>と平成2年<sup>注2</sup>に津幡町教育委員会が発掘調査を行っており、弥生時代終末から古墳時代にかけての遺構が検出されている。今回の調査箇所は、その丘陵から延びる舌状大地の末端部、能瀬川の自然堤防上に在る。この丘陵は新第三紀鮮新世の砂岩大桑累層からなり、僅かに礫を含むことから石山の通称が生まれたと云われている。実際調査区の一部を重機で断ち割ったところ地山から礫が数点出土した。

津幡町はほぼ石川県の中央部、北加賀の北端部に位置し、東は砺波丘陵を介して富山県と接し、西は県内最大湖沼であった河北潟、内灘砂丘をはさんで日本海を望む。古代より能登・越中を結ぶ交通路の要所として栄えてきた地域である。砺波丘陵および南能登丘陵は低山、丘陵地形で、西方へむけて緩く傾斜し、標高30～50mの中位段丘から西方向の沖積平野に落ち込む。そして南北に2～3km程の平野を介して河北潟に至る。低山、丘陵地形の割にはほぼ東西に流れる中小河川の津幡川・能瀬川を中心としてよく開析した谷平野が樹枝状に発達している<sup>注3</sup>。



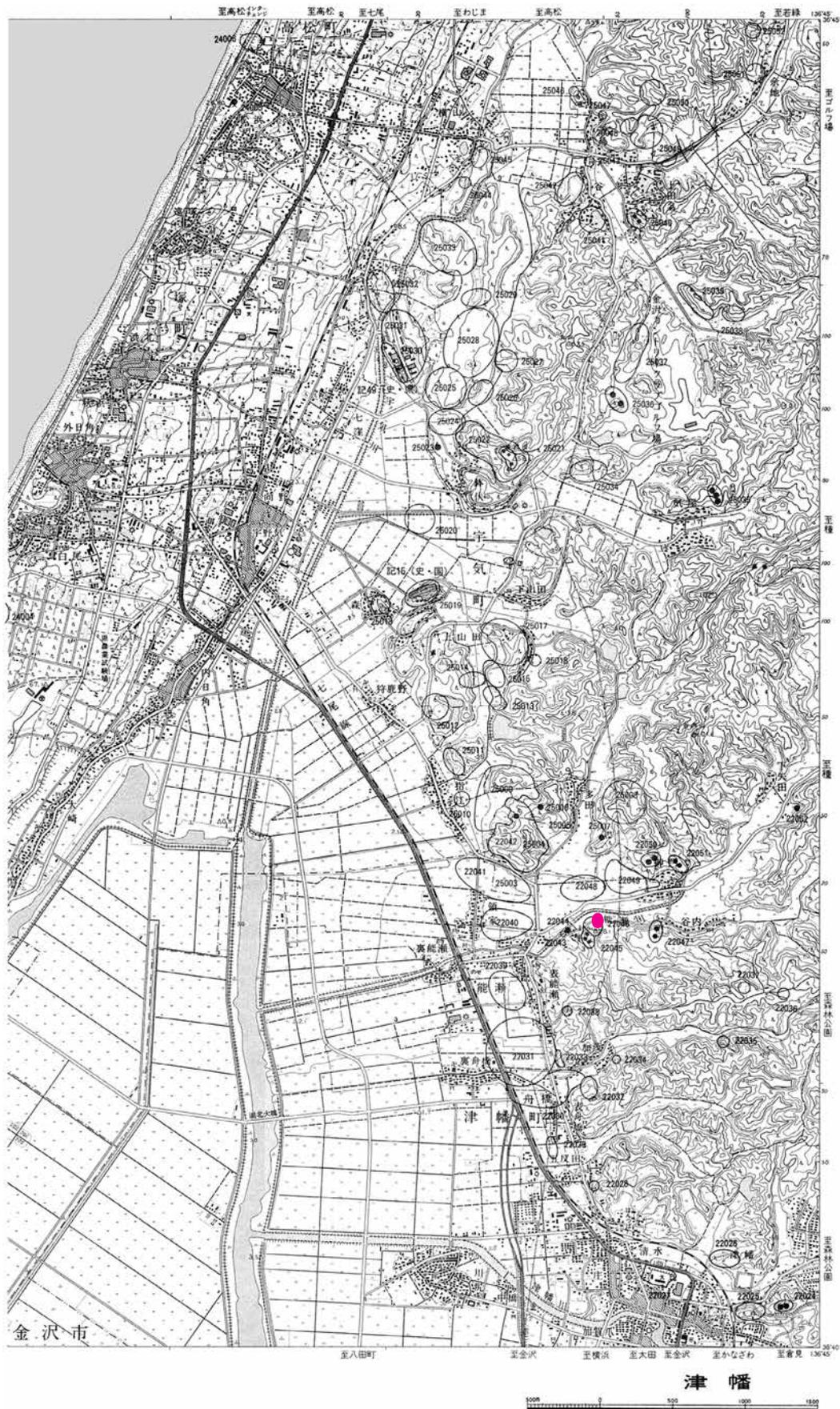
第1図 谷内石山遺跡の位置

# 第2章 遺構と遺物

## 第1節 遺 構

調査区は幅5m、長さ130mという細長いもので、便宜上東半部と西半部に分けて調査を行った。

調査区のうち東半部は後世の開墾等によるものか大幅な削平を受けており、遺構、遺物は希薄であった。西半部では幅20～50cm、深さ10cm前後の溝15条が並走して検出され、奈良時代から平安時代の土器が出土した。これらの溝は類例からみて畑作にともなう畝溝の可能性が高いと言えよう。



第2図 谷内石山遺跡と周辺の遺跡

遺跡番号	枝番号	地図番号	名称	所在地	所在地通称	種別	現状	立地	時代	出土品	備考	文献	旧県遺跡番号
22001		29	太田シタダ遺跡	津幡町太田	シタダ	散布地	田・宅地	平地	奈良・平安	銅製帯金具(釵具・丸刺)、須恵器	1988～90年町教委発掘調査。		
22002		29	太田遺跡	津幡町太田	菜畑	散布地	宅地	平地	古墳	壺、高杯			1724
22003		29	南中条遺跡	津幡町南中条		散布地	宅地	平地	縄文・古墳	打製石斧、高杯	打製石斧は単独出土。	374	1728
22004		29	南中条横穴	津幡町南中条	八幡神社	横穴墓	社地	丘陵	古墳		板石で入口を覆う。		1726
22005		29	浅田古墳群	津幡町浅田		古墳	山林	丘陵	古墳			1004	6184
22006		29	加賀爪遺跡	津幡町加賀爪		散布地	校地	平地	古墳	須恵器(甕、甕、盆)	校庭建設工事で一部損壊。		5044
22007		30	相窪遺跡	津幡町相窪		散布地	山林・田・畑	丘陵	縄文中期	磨製石斧、土器		1295	1733
22008		30	北横根遺跡	津幡町北横根		散布地	山林	丘陵	中世	珠洲焼壺、壺		1004, 1047	6185
22009		30	俱利伽羅城跡	津幡町俱利伽羅		城跡	山林・寺地	丘陵	中世			1677	6740
22010		30	龍ヶ峰岩跡	津幡町上藤又・原・山森	ジョウガミネ	城跡	山林	丘陵	中世			32, 1677	
22011		30	越中坂塚	津幡町越中坂		塚	山林	丘陵	不詳				1812
22012		30	原アナガマ遺跡	津幡町原	アナガマ	散布地	畑	丘陵	不詳	土器			1812
22013			越中坂アランヤチ横穴	津幡町越中坂	アランヤチ	横穴墓	山林	丘陵裾	不詳		1985年崖崩れのため損壊。	1812	
22014		30	越中坂サンマイガワラ横穴	津幡町越中坂	サンマイガワラ	横穴墓	山林	丘陵斜面	不詳	土器			1812
22015		30	竹橋ジョウヤマ遺跡	津幡町竹橋		散布地	畑	丘陵裾	縄文後期・古墳	土器、石鏡、磨製石斧		374, 510, 812	1734
22016		30	七野ムカイヤマ遺跡	津幡町七野	ムカイヤマ・ウマコログン	散布地	山林	丘陵	弥生・古墳	土器、石製品	1990年町教委発掘調査	1800	
22017		30	七野古墳群	津幡町七野	ゴテンバタケ・フンノシロ	古墳	山林	丘陵	古墳		7基以上よりなる。	1800	
22018		30	竹橋サイシザカ遺跡	津幡町竹橋		散布地	山林	丘陵	弥生・平安	弥生土器、須恵器			6739
22019		30	竹橋油木谷遺跡	津幡町竹橋		散布地	山林	丘陵	縄文・弥生・平安	縄文土器、凹石、弥生土器、須恵器	1984年町教委発掘調査	1354, 1386	6738
22020		30	東荒屋遺跡	津幡町東荒屋	ミズクボ	散布地	田	平地	縄文・古墳	磨製石斧(単独出土)、甕、杯			1730
22021		30	旭山ボッコリ塚	津幡町旭山		塚	山林	丘陵	不詳		径7-8m、高さ1.5m。		6735
22022		30	東荒屋カンジャワラ遺跡	津幡町東荒屋・杉瀬		散布地	畑・田	平地	不詳	土師器、須恵器			6736
22023		30	猪塚	津幡町杉瀬	シンボ(新堡)山	塚	道路敷	丘陵	江戸		径4m、高さ1.1m。1984年町教委発掘調査。	1447	6737
22024		31	太白台古墳群	津幡町表能瀬		古墳	山林	丘陵	古墳		2基よりなる。	1004	6186
22025		31	津幡遺跡	津幡町津幡		散布地	山林・社地	丘陵	古墳	甕、壺、高杯			1737
22026		31	津幡スワヤマ遺跡	津幡町津幡	スワヤマ	散布地	畑	丘陵裾	古墳	甕、壺、高杯		812	1736
22027		31	津幡城跡	津幡町清水	オオニシ山	城跡	校地	丘陵	中世～近世		町指定史跡。現津幡小学校校地。	1610	6522
22028		31	庄住吉神社遺跡	津幡町庄		散布地	山林	丘陵	弥生	甕			6187
22029		31	五月田遺跡	津幡町五月田		散布地	田	平地	奈良～中世	土師器、須恵器、珠洲焼		1295	6523
22030		31	加茂遺跡	津幡町加茂・船橋		散布地	田	平地	古墳～平安		1991年県埋文保存協会発掘調査。		1738
22031		31	加茂藤寺遺跡	津幡町加茂・船橋・能瀬	ソウナリ	散布地・寺跡	田	平地	古墳～平安	軒瓦、平瓦、須恵器、火鑽石、土師器		367, 812	1740
22032		31	加茂ツチグラ遺跡	津幡町加茂	ツチグラ	散布地	山林	丘陵裾	古墳後期	須恵器		1295	6524
22033		31	加茂A遺跡	津幡町加茂	集落跡	山林	丘陵	丘陵	弥生	土器			
22034		31	加茂明神遺跡	津幡町加茂	明神	散布地	山林	丘陵端	古墳	須恵器	古墳の可能性もある。		5045
22035		31	加茂葉宮遺跡	津幡町加茂	オクミヤ	散布地	山林	丘陵裾	古墳	甕			1741
22036		31	能瀬クサヤマA遺跡	津幡町能瀬	クサヤマ	散布地	畑	丘陵	縄文	土器、石器			
22037		31	能瀬クサヤマB遺跡	津幡町能瀬	クサヤマ	散布地	山林・畑	丘陵	縄文・平安・中世	縄文土器、磨製石斧、須恵器、土師器、珠洲焼		1047	1742
22038		31	能瀬神社遺跡	津幡町表能瀬		散布地	社地・山林	丘陵	鎌倉	珠洲焼			5046
22039		31	能瀬遺跡	津幡町能瀬		散布地	田	平地	弥生～平安	磨製石斧(単独出土)、磨製石鏡、高杯、土師器		374, 812, 1295	1743
22040		31	領家遺跡	津幡町領家		散布地	田	平地	奈良～中世	土師器、須恵器、珠洲焼		1295	6525
22041		31	領家指江ハシバ遺跡	津幡町領家・宇ノ気町指江	ハシバ	散布地	田	平地	奈良～中世	土師器、須恵器、珠洲焼	宇ノ気町指江にまたがる。	1295	6526
22042		31	英田広済寺跡	津幡町領家・宇ノ気町多田		寺跡	山林・畑	丘陵	中世	土師器	宇ノ気町多田にまたがる。	1810	
22043		31	能瀬イシヤマ遺跡	津幡町能瀬	イシヤマ	散布地	宅地	平地	縄文				1745
22044		31	能瀬石山古墳	津幡町能瀬	イシヤマ	古墳	畑	平地	古墳	勾玉、鉄鏝、ガラス小玉、直刀		812, 1004, 1047	1746
22045	1	31	谷内石山1号墳	津幡町谷内		古墳	山林	丘陵	古墳				6189
	2	31	谷内石山2号墳	津幡町谷内		古墳	山林	丘陵	古墳				
	3	31	谷内石山3号墳	津幡町谷内		古墳	山林	丘陵	古墳				
22046		31	谷内石山遺跡	津幡町谷内	イシヤマ	集落跡	山林	丘陵	縄文・弥生・平安	土器、石器	1976, 89年町教委発掘調査。	1004, 1047	6188
22047	1	31	谷内1号横穴	津幡町谷内		横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳		幅7尺、奥行3間、高さ7尺、平面馬蹄形。		1747
	2	31	谷内2号横穴	津幡町谷内		横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳				1748

第1表 遺跡地名表

## 第2節 遺物

遺物としては約330片の須恵器と土師器があるが土師器の細片が8割近くを占め、形の分かるものは20点ほどである。包含層や遺構からは古墳時代の須恵器も出土しているが、大半は平安時代のものである。

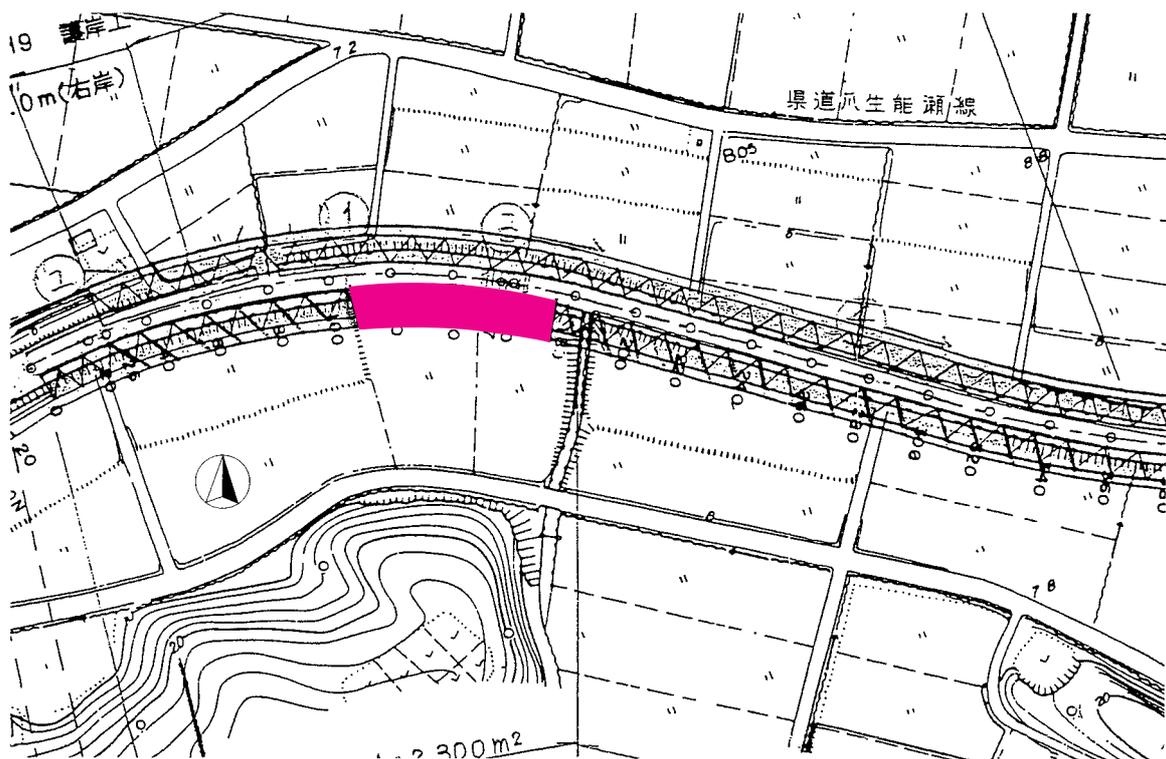
1は6世紀末～7世紀初頭の須恵器杯身である。11は古墳時代の壺の口縁である。2は8世紀第4四半期の杯蓋である。3は8世紀末の杯身である。4～20は平安時代か器種は判るが時期不詳のものである。

### 注

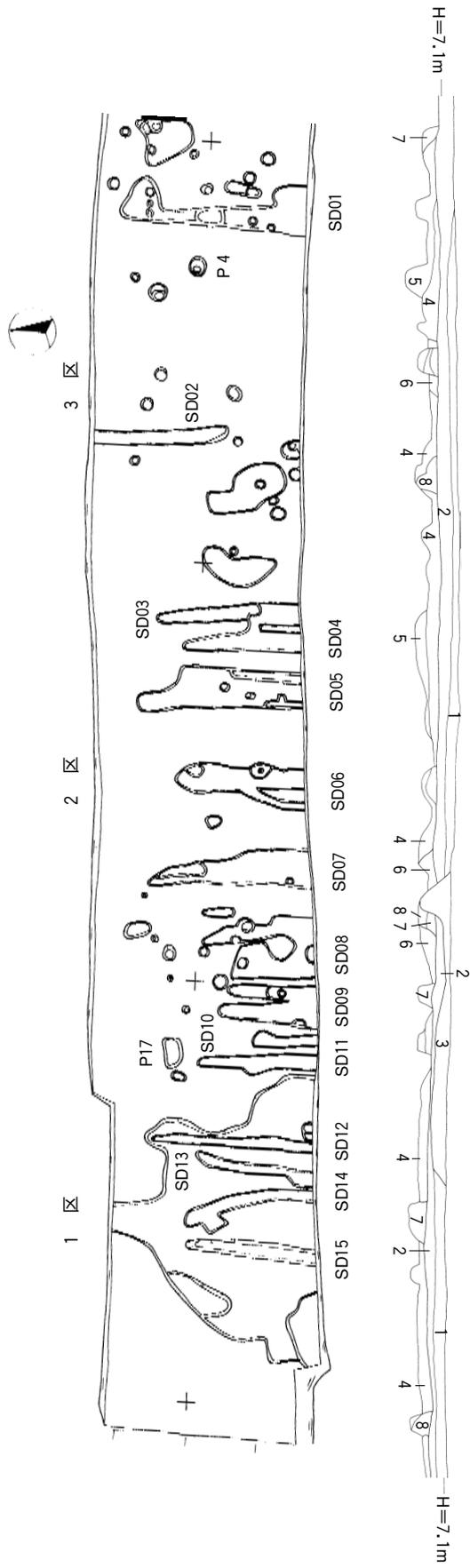
- 1 西野秀和他『津幡町谷内石山遺跡』津幡町教育委員会 1980年
- 2 竹田 学『津幡町谷内石山遺跡Ⅱ』津幡町教育委員会 1990年
- 3 西野秀和「Ⅰ遺跡の位置と環境」『津幡町谷内石山遺跡』津幡町教育委員会 1980年

### 引用文献

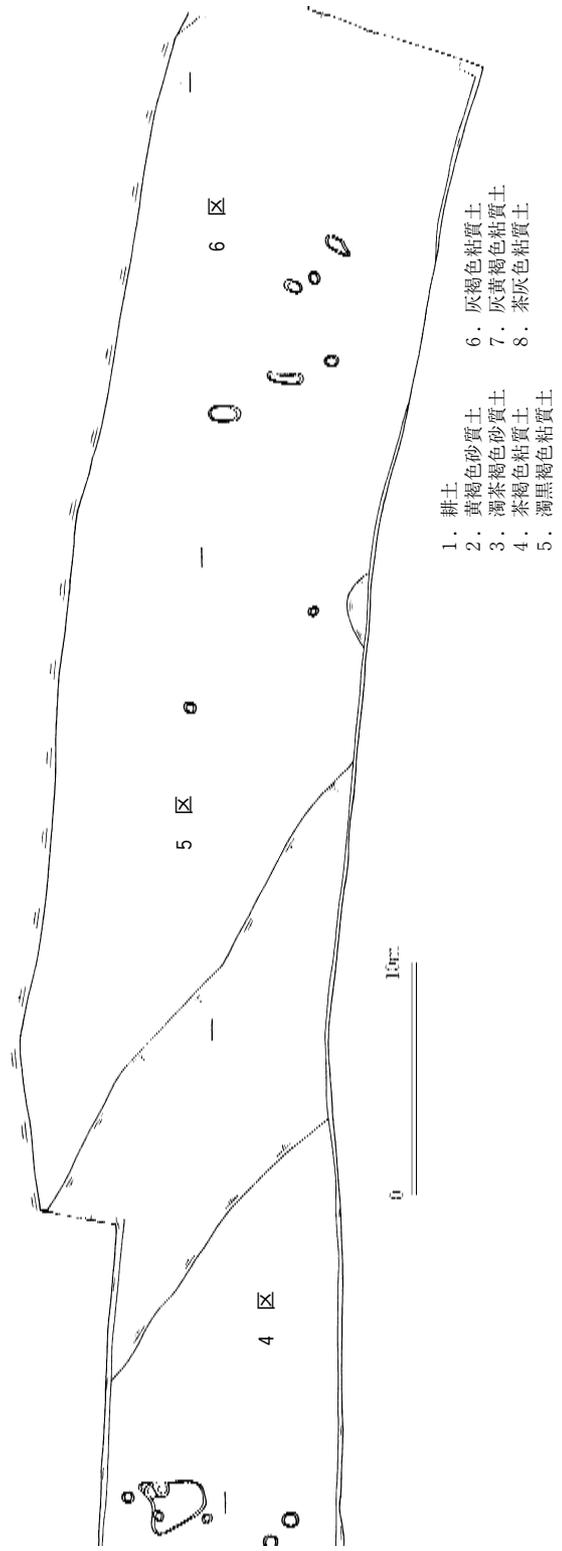
石川県教育委員会『石川県遺跡地図』1992年



第3図 調査区位置図 (S=1/2,500)



図解新石器土器群区3~1



- 1. 耕土
- 2. 黄褐色砂質土
- 3. 濁茶褐色砂質土
- 4. 茶褐色粘質土
- 5. 濁黒褐色粘質土
- 6. 灰褐色粘質土
- 7. 灰黄褐色粘質土
- 8. 茶灰色粘質土

第4区 遺構実測図 (S=1/160)



第5圖 出土遺物実測図 (S = 1/3)

第2表 出土遺物観察表

挿図番号	実測番号	出土地区	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	焼成	調整	備考
1	1	1区 SD-09	須恵器	杯身	12.0		2.55	内一灰白、外一灰白	粗砂を少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
2	4	1区 包含層	須恵器	杯蓋	18.5		3.3	内一灰、外一灰	粗砂を含む	良	内一ヨコナデ、外一ヘラケズリ後ヨコナデ	
3	6	2区 検出面	須恵器	杯身	11.0	6.8	4.35	内一灰、外一灰	粗砂を多く含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
4	5	1区 包含層	須恵器	杯身	12.5	6.6	2.75	内一灰黄、外一灰黄	砂少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	底部に墨痕有るが、判読不明
5	15	1区 SD-09	須恵器	杯身	13.8	9.4	2.35	内一灰白、外一灰白	粗砂を少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
6	16	1区 SD-09	須恵器	杯身	14.3		4.75	内一灰白、外一灰白	粗砂を少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
7	19	1区 包含層	須恵器	杯身		5.8	1.6	内一灰白、外一灰白	礫を極少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
8	14	1区 SD-15	須恵器	杯身	15.8		5.1	内一灰、外一灰	細砂を多量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
9	17	1区 SD-09	須恵器	杯身		7.2	1.8	内一灰白、外一灰白	粗砂を少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
10	20	1区 SD-03	須恵器	杯身		7.0	2.8	内一灰、外一灰	細砂を多量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
11	10	1～3区 包含層	須恵器	壺				内一灰、外一灰	粗砂を含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
12	18	1区 SD-09	須恵器	壺	11.1		2.8	内一灰、外一灰	細砂を少量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
13	9	3区 包含層	土師器	椀		6.1	2.6	内一灰白、外一黄橙	細砂を少量含む	良		摩滅著しく調整不明
14	11	2区 包含層	土師器	椀		8.0	2.3	内一浅黄橙、外一黄橙	細砂を少量含む	良		摩滅著しく調整不明
15	12	2区 包含層	土師器	椀	16.3		4.15	内一灰白、外一灰白	礫を極少量含む	良		摩滅著しく調整不明
16	8	3区 包含層	土師器	椀		6.4	3.65	内一浅黄橙、外一浅黄橙	細砂を少量含む	良		摩滅著しく調整不明
17	3	1区 包含層	土師器	椀		6.8	3.4	内一浅黄、外一浅黄	細砂を少量含む	良		摩滅著しく調整不明
18	7	3区 ビット4	須恵器	壺		12.0	6.5	内一灰白、外一灰	粗砂を多量含む	良	内一ヨコナデ、外一ヨコナデ	
19	2	3区 ビット17	土師器	甕	20.8		13.25	内一黄橙、外一黄橙	細砂、粗砂を多量含む	良		摩滅著しく調整不明
20	13	1区 SD-09	須恵器	甕				内一灰、外一灰	粗砂、礫を含む	良	内一タタキ、外一タタキ	



調査区遠影 (南西より)



調査区遠影 (北東より)



調査前状況



西調査区表土除去作業状況



西調査区遺構検出作業状況



西調査区検出状況（西より）



西調査区遺構検出状況



遺構掘削作業状況





SD 06 · 07



SD 08 · 09 · 10 · 11



SD 12 · 13 · 14 · 15



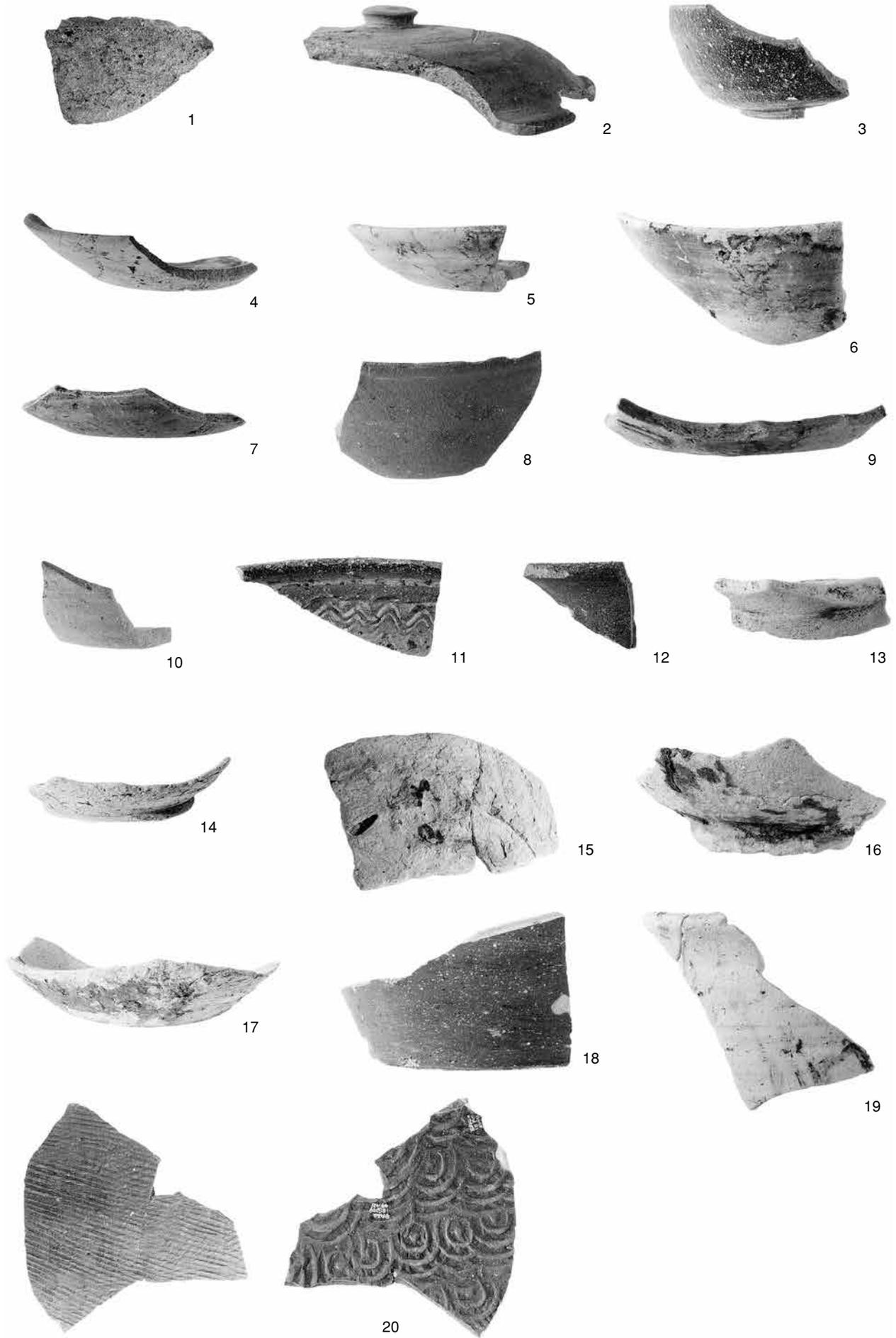
溝堆積状況



西調査区完掘状況（西より）



東調査区遺構検出状況（東より）



## 報告書抄録

ふりがな	つばたまちやちいしやまいせき							
書名	津幡町谷内石山遺跡							
副書名	県単河川改良二級河川能瀬川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	岡本恭一							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やちいしやまいせき 谷内石山遺跡	いしかわけん つばたまち 石川県津幡町  やち 谷内地内	17361	22046	36度 40分 30秒	136度 45分 15秒	2003,1002 ～ 2003,1104	650m <sup>2</sup>	河川改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
谷内石山遺跡		古墳時代		須恵器				
	生産域	古代	溝	須恵器・土師器				

### 津幡町 谷内石山遺跡

発行日 平成17(2005)年3月31日  
 発行者 石川県教育委員会  
 〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
 電話 076-225-1842 (文化財課)  
 財団法人石川県埋蔵文化財センター  
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
 電話 076-229-4477  
 E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp  
 印刷 福島印刷株式会社